

トランジション・ファイナンス環境整備検討会 (トランジション検討会)

2022年9月

金融庁 総合政策局 総合政策課
経済産業省 産業技術環境局 環境経済室
環境省 大臣官房 環境経済課

1. 問題意識

- EUを中心にグリーン化を先行させるべくサステナブル・ファイナンスを支援する政策や取組が進捗するなか、本検討会はトランジション・ファイナンスの重要性に着目し、信頼性ある市場の創設に向けて、国際資本市場協会（ICMA）の原則と整合した「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」を2021年5月に策定した。
- その後、経済産業省では、CO2多排出産業の2050年カーボンニュートラル実現に向けた具体的な移行の方向性を示すため、分野別の技術ロードマップを鉄鋼、化学、電力、ガス、石油、紙パルプ、セメントの7つの分野で策定し、今年度中に自動車でも策定を予定している。
- これらを背景に、トランジション・ファイナンスのモデル事例は12案件、3000億円規模となっており、脱炭素化に積極的な大手企業においては、自主的な取組が進みつつある。他方、一足飛びの脱炭素化が困難な多排出産業において、脱炭素化およびそのための資金調達はまだ道半ばである。
- 投融資先のネットゼロ実現まで求めるGFANZ等の金融連合が発足する中、投融資先の排出は金融機関自身のポートフォリオの排出となることから、排出量削減は、企業と金融機関双方の課題となる。
- このため、安易なダイベストメントではなく、実経済の脱炭素化を支援することによってこそ、ファイナンスド・エミッションの脱炭素化が実現されることを基本として、企業と投資家・金融機関が対話をしつつ、脱炭素化に向け、トランジション戦略を実現していくことが重要であり、「クリーンエネルギー戦略 中間整理」において、投資家・金融機関向けのエンゲージメント・ガイダンス（仮称）を策定することとした。
- こうした状況を踏まえ、企業と投資家・金融機関のエンゲージメントを充実させ、トランジション・ファイナンスを推進するため、投資家・金融機関向けの、多排出産業を中心とした「エンゲージメント・ガイダンス（仮称）」を策定するため、具体的な検討を行う。具体的には、投資家・金融機関が、分野別技術ロードマップ等を参照しつつ、脱炭素化に向けた取組を行う企業の競争力強化を実現するため、企業とエンゲージメントを行う際に使用する実務的な手引きを作成する。

2. 検討内容

- 上記の背景を踏まえ、当検討会においては、トランジション・ファイナンスの市場整備を進めるため、多排出産業における企業と投資家・金融機関の脱炭素に向けたエンゲージメントの充実に資するガイダンスを策定したい。ガイダンスの方向性については、以下の点を中心に議論し、とりまとめていく。
 - ① 脱炭素の実現と競争力強化を両立するための企業の価値創造に向けた企業及び投資家・金融機関の役割と課題
 - ② 多排出分野の事業会社のビジネスモデル転換の実現につながる投融資に向けて投資家・金融機関と企業が目線合わせをすべき要素や、エンゲージメントの際に必要な取組の検討

3. スケジュール

- 2021年11月に本検討会第4回が開催されたため、本検討会の継続開催とし、2022年9月1日に第5回を開催、以降、上記検討内容について計3～4回議論を行い、年度内にガイダンスを策定・公表予定。